

2011年11月吉日

関係者各位

フィンランド大使館 フィンランド技術庁 Tekes
VTT フィンランド国立技術研究センター
株式会社ノタヴァ

TRONSHOW2012 への出展とセミナー開催についてのご案内

拝啓

晩秋の候、ますますご清栄のことお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、フィンランドのユビキタスに関する最先端の技術動向について、来る12月14日～16日に東京ミッドタウン（港区六本木）で開催されます TRONSHOW2012 に出展いたします。期間中、12月16日(金)午後1時30分より『フィンランドのIoT: その技術研究からビジネスに向けて』と題したセミナーを開催いたします。また、セミナーの後半には、坂村先生のコーディネートによるパネル・ディスカッションを行います。

セミナーの詳細日程および内容は、下記の通りです。

セミナーは日英同時通訳付です。

下記ホームページより事前登録とセミナー聴講予約をお願いします。

<http://www.t-engine.org/tronshow/2012/regist/?lang=ja>

皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

敬具

記

【セッション名】「フィンランドのIoT: その技術研究からビジネスに向けて」

【日時】 12/16(金) 13:30 - 15:30

【会場】 展示会場シアター1 (同時通訳)

【概要】 情報社会の環境がユーザー指向のユビキタス・コンピューティング・サービスへ向かっているフィンランドのIoT(Internet of Things)について、その技術研究の最新動向やビジネス化へのアプローチを国立研究所、企業、行政機関の立場から紹介します。また、フィンランドのIoT技術と uID/ucode や T-Kernel など TRON プロジェクトのイノベーション技術との協力関係および今後の展望を紹介します。本セッションの最後には、坂村先生のコーディネートによるパネル・ディスカッションを行います。

【プログラム】

13:30 – 13:40	オープニング
	<p>坂村 健 トロンプロジェクトリーダー、東京大学教授 YRPユビキタス・ネットワーキング研究所長</p>
13:40 – 14:00	キーノートスピーチ：オープン・イノベーション・エコシステム Open Innovation Ecosystem: challenges and promises
	<p>タトゥ コルヨネン (Dr. Tatu Koljonen) VTT フィンランド国立技術研究センター 副社長, ストラテジック・リサーチ部門</p>
14:00 – 14:20	デジタル世界と現実世界の架け橋となるユビキタス Bridging real and digital worlds
	<p>ユハ-ペッカ ソイニネン (Dr. Juha-Pekka Soininen) VTTフィンランド国立技術研究センター 教授兼リサーチ・コーディネーター コンピューティング・アーキテクチャ分野, 製品プラットフォーム部門</p> <p>ヘイッキ アイリスト (Dr. Heikki Ailisto) VTTフィンランド国立技術研究センター 教授兼Open Smart Spaces(OPENS)プログラムマネージャ</p>
14:20 – 14:40	ユースケース指向の仮想電子機器の実現 Virtual Devices in the Physical World
	<p>ティモ エリクソン (Mr. Timo Eriksson) Notava Inc. 取締役兼エグゼクティブ・バイス・プレジデント, マーケット・セールス部門</p>
14:40 – 14:55	研究成果をサービス・ビジネスへ転じる フィンランドのユビキタス・コンピューティング Finland Ubiquitous computing from research to services
	<p>キンモ アホラ (Mr. Kimmo Ahola) フィンランド技術庁 Tekes, 主席技術アドバイザー</p>
14:55 – 15:30	パネル・ディスカッション
	<p>【コーディネータ】 坂村 健 【パネリスト】 タトゥ コルヨネン (Dr. Tatu Koljonen) ユハ-ペッカ ソイニネン (Dr. Juha-Pekka Soininen) ヘイッキ アイリスト (Dr. Heikki Ailisto) ティモ エリクソン (Mr. Timo Eriksson) キンモ アホラ (Mr. Kimmo Ahola)</p>

【講演の概要】

13:40 – 14:00

オープン・イノベーション・エコシステム

Open Innovation Ecosystem: challenges and promises

タトゥ コルヨネン

(VTT フィンランド国立技術研究センター, 副社長, ストラテジック・リサーチ部門)

Dr. Tatu Koljonen

(Vice President of Strategic Research / VTT Technical Research Centre of Finland)

オープン・イノベーション・エコシステム：課題と展望

オープン・イノベーションと共創(co-creation)は、ものがあふれ、人々の生活や要求も多様化し、一方でインターネットなどの技術進歩によってあらゆるものが融合するこの時代に、その複雑さを解決する全般的な改善策としてよく扱われます。

しかし、実際のところは、オープン・イノベーションを起こそうとして失敗した例がほとんどで、成功した例はごくわずかです。それは、次のような点についての共通した誤解によることが多いのです。オープン・イノベーションの大局的な概念についての誤解や、イノベーションを直接取り扱えるような市場や革新的なものを作り出した開発者へのインセンティブといった経済的な動機づけを行うもの、管理階層、そして技術的互換性の解決策をオープン・イノベーションの中でどういう過程でどう実施すればよいのかということについての誤解です。オープン・イノベーションについて最もよく見逃される側面は、何かを開発するのにそれを取り決める契約などの手段がない場合に、開発者と利用者となる大勢の一般大衆との間に共通の利害関係を作ることの重要性です。

本発表では、このオープン・イノベーションに関する混沌とした状況を打破するための一つの例として、中小企業のための CREATOR コンセプトを紹介します。

Open innovation and co-creation are often treated as a general remedy for solving the complexities of the converging world. In practice there have been only a few of success cases compared to failures in exploiting open innovation. Often these is due to common misconceptions of the overall concept as well as what the needed processes and practices are involving management hierachies, technical compatibility solutions and economical enablers like market places for innovations and incentives for innovators. The most often overlooked aspect of open innovation is the creation of shared interest among the developers and greater public, when contractual means are not available. As an example, the CREATOR concept for SMEs in open innovation is presented.

14:00 – 14:20

デジタル世界と現実世界の架け橋となるユビキタス

Bridging real and digital worlds

ユハ - ペッカ ソイニネン

(VTT フィンランド国立技術研究センター, 教授兼リサーチ・コーディネーター, コンピューティング・コンピュータアーキテクチャ分野および製品プラットフォーム部門)

Dr. Juha-Pekka Soinen

(Research professor of computing and computer architectures and a research coordinator of product platforms / VTT Technical Research Centre of Finland)

ヘイッキ アイリスト

(VTT フィンランド国立技術研究センター, 教授兼 Open Smart Spaces(OPENS)プログラムマネージャ)

Dr. Heikki Ailisto

(Research Professor and Programme Manager Open Smart Spaces (OPENS) / VTT - Technical Research Centre of Finland)

これまでの「ユビキタス」は主に仮想的なデジタル世界が中心でしたが、近年では、現実世界との融合へ進化し始めています。それは、実際の「もの」と対応する電子的な対照を作ることであり、その上にスマートでインテリジェントなアプリケーションを開発することです。そこで重要なキーワードは、「オープン・ソリューション」、「セマンティック情報」、そして、「相互運用可能なシステム」です。

本講演では、北欧最大の研究機関として VTT が本件を大局的にどのように捉えているのか、そこで考慮すべき根本的な事柄は何かについて紹介します。また、uCode/T-Kernelに関連した VTT の TRON との関係やこれまでの経験について紹介します。さらには、この分野の将来の方向性について考察します。

Ubiquitous world is taking its first real steps. It is about creating digital counterparts for real things and developing applications, smartness, and intelligence on top of them. The key words in it will be open solutions, semantic information, and interoperability based systems. This talk will discuss about how the landscape is seen at VTT, what are the essential topics taken into account, the relationship and experiences VTT has had related to uCode and T-Kernel, and how we see the future in this area.

14:20 – 14:40

ユースケース指向の仮想電子機器の実現

Virtual Devices in the Physical World

ティモ エリクソン

(Notava Inc., 取締役兼エグゼクティブ・バイス・プレジデント, マーケット・セールス部門)

Mr. Timo Eriksson

(Executive Vice President, Marketing and Sales, Notava Inc.)

近年、携帯電話やスマートフォンに代表されるように、とても多くの機能を持ったインテリジェントで多種多様な電子機器が我々の生活を豊かにしています。各電子機器が相互に通信し情報処理を行える機能を持ったことは非常に大きな進化です。しかし一方で、利用者からみれば、その利用は簡単になるどころか、何か一つのことを行おうとする(ユースケース)と関係する複数の機器に対してそれぞれ操作を行わなければならないという複雑化の方向へ進んでいます。例えば、映画を見るという一つのことを行うために、DVD プレーヤーとテレビ、オーディオ機器のそれぞれを操作しなければなりません。

仮想電子機器とは、ユースケースに最適な機能を必要な時に仮想的に実現することです。それは、実際の各電子機器が提供する様々な機能からユースケースに必要なものを結び付けて、新たに一つのまとまった機能を実現することです。そして、利用者の立場からユースケースに応じた簡単な利用方法を提供し、ユーザー・エクスペリエンス(利用者の体験から得られる満足)を最大限に引き出します。

本講演では、フィンランド産業共同プロジェクト「DIEM」の研究成果をもとに、仮想電子機器の考え方とそれを可能にする技術を紹介します。また、実際にその利用を広めていくために必要な施策について考察します。DIEM プロジェクト(www.diem.com)には、ノタヴァ(Notava)、ノキア(Nokia)そしてVTT フィンランド国立技術研究センターが参加しています。

We are being surrounded more and more by different intelligent physical devices. To a large extent these devices have a capability to process information and communicate with each other. From the end-user point of view, however, device usage is far from easy and may involve multiple actions to perform a certain use case (e.g. watching a movie involves use of DVD player, projector and audio device). The concept of Virtual Device is about collecting related services together and providing simplified and maximized end-user experience. This presentation explains the thinking behind the Virtual Devices together with enabling technologies and deployment ideas. The results are based on work done within a Finnish joint industry project DIEM (www.diem.com) between Notava, Nokia and VTT.

14:40 – 14:55

研究成果をサービス・ビジネスへ転じるフィンランドのユビキタス・コンピューティング
Finland Ubiquitous computing from research to services

キンモ アホラ

(フィンランド技術庁 Tekes, 主席技術アドバイザー)

Mr. Kimmo Ahola

(Programme manager of national Ubicom - Embedded ICT programme)

フィンランドにおける情報化社会は、産業と政策の両面から、一般利用者を対象としたユビキタス・コンピューティング・サービスへと向かっています。その中で、Tekes (フィンランド技術庁) の Ubicom プログラムは、まさに、ユビキタス・コンピューティングに関する研究開発予算の強化や関連産業を活性化する政策を行ってきました。2007 年から始まったこの Ubicom プログラムでは、現在、これまでの研究成果をもとにしたサービス・ビジネスの開発と実証実験に注力する段階に至っています。

本講演では、フィンランドのユビキタス・コンピューティングに関する最新動向として、ユビキタス関連分野へのフィンランド政府の考え方や取り組み、実証実験の状況、日本との協調を中心としたグローバル展開について紹介します。

Finland information society environment has jointly via business and governmental decisions matured towards more user focused ubiquitous computing services. National Ubicom programme from 2007 has moved its focus from research to enabling business developments and service piloting.

以上
